

# 児童発達支援ガイドライン自己評価表

アンケート実施期間: 2024年12月  
結果公表日: 2025年3月27日

## 回答率

事業所職員: 6名回答、回答率 100%  
保護者様: 2024年度児童発達支援利用者無し

## 職員の意見

### ○環境・体制整備

- ・環境面について、放課後等デイサービスと同じ訓練室で過ごすため、児童発達支援の利用開始時には、利用者の体型や安全面に配慮した環境作りをする必要がある。
- ・課題について、イラストや写真を用いて提示したり、送迎について掲示したりしているので、情報が視覚的に分かりやすいようになっている。
- ・体制面について、運営基準よりも多くのスタッフが配置されている。

### ○業務改善

- ・業務前にミーティングを行い、児童の気になる様子などを共有しながら支援方針を考えることが出来ている。
- ・児童発達支援に特化した研修の実施をしていないので、児童発達支援が開始する場合は、法人内の研修を受講し、専門性を高めていく必要がある。

### ○適切な支援の提供

- ・支援プログラムの公表を実施できている。
- ・法人内の心理士と支援についての打ち合わせを行い、多角的な視点で個別支援計画を作成できている。

### ○関係機関や保護者との連携

- ・主に送迎時や個別支援計画更新の面談時などに、保護者と連携をとっている。必要に応じて電話やメールで相談に応じている。
- ・児童発達支援から利用することにより、事業所の環境に慣れた状態で放課後等デイサービスに移行することができる。

### ○保護者への説明責任等

- ・個人情報、事務室内や鍵付き書庫で保管し、管理できている。
- ・月に1度、前月の活動の様子や、翌月の活動予定をお便りで発信できている。

### ○非常時等の対応

- ・毎月避難訓練を実施し、非常時の対応に備えている。
- ・虐待防止や身体拘束の研修を実施し、職員全員が支援の安全面に気を付けて対応している。

## 保護者様のご意見

2024年度児童発達支援利用者なし

○環境・体制整備

○適切な支援の提供

○保護者への説明等

○非常時等の対応

○満足度

## 昨年度の振り返り

○今年度の取り組む具体策

・2023年度児童発達支援利用者無しのため未作成

○改善できた点・まだ残る課題



## アンケート結果からみる教室の強み・改善点

### ○教室の強み

### ○改善点



## 中長期的な改善計画・1年間で取り組む具体策

### ○中長期的な改善計画

- ・利用者が始まった際には、しっかりとアセスメントを行い、利用者に合わせて環境の整備を行う。
- ・児童発達支援として、就学に特化した課題作りを行うことで安心した就学準備につなげる。
- ・保護者と面談や送迎時に情報交換を行い、必要に応じて家庭連携等をすすめることで利用者だけでなく、家族も安心して利用できるようにしていく。

### ○1年間で取り組む具体策

- ・利用時に家庭連携などについてもお知らせすることで、ご家族が不安な際にすぐに利用ができるよう支援する。
- ・学習だけでなく、イスに座る練習や話の聞き方など就学に必要なスキルが見につくように課題を準備する。

スマートキッズ